

竜串自然再生協議会について

- ◆ 高知県土佐清水市に位置する足摺宇和海国立公園竜串海中公園地区は、黒潮暖流の影響を受け、高緯度にもかかわらずイシサンゴ類をはじめとした造礁サンゴが高被度に分布し、温帯性や熱帯性の多様な海中生物が生息している。しかし、近年、海域での濁りの発生や水質の悪化などが原因とみられるサンゴ群集の衰退が徐々に報告されるようになり、さらに、平成13年9月には、高知県西南地域で局地的な集中豪雨が発生し（西南豪雨）、上流域から大量の土砂などが竜串湾に流れ込み、サンゴ群集や海中生物などに大きな被害が生じた。
- ◆ 環境省では平成15年より、地域住民代表、関係団体、専門家、関係行政機関などからなる「竜串自然再生推進調整会議」を設置し、サンゴ群集衰退の原因究明や再生に向けた取り組みなどについて検討した。
- ◆ 平成18年9月に自然再生推進法に基づく「竜串自然再生協議会」を設立。
(竜串湾のサンゴを再生するため、海底に堆積した泥土の除去や、森林や河川などからの土砂流出、周辺地域からの生活排水など、流域からの様々な環境負荷を抑制することを検討。)

○ 第1回自然再生協議会（平成18年9月9日）

- ・ 協議会の設立

○ 第2回自然再生協議会（平成19年1月17日）

- ・ 全体構想（原案）の協議

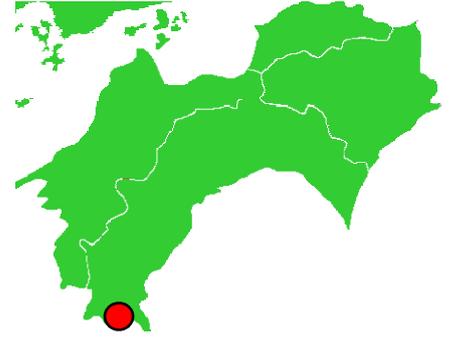
◆ 自然再生協議会の構成員

個人(専門家含む)30、団体13、

関係地方公共団体23、関係行政機関5

合計71(個人・団体)※平成19年11月現在

たつくし
竜串自然再生協議会



自然再生の対象となる地域(案)(協議会設置要綱より:約8千ha)



下層植生が発達していない
ヒノキ林地の林床(西の川流域)
(間伐等の森林整備を検討)



植生の回復が見られない崩壊地
(西の川流域)



降雨時の西の川と三崎川の合
流点の状況
(左:西の川、右:三崎川本川)



衰退したサンゴ群集



海底に堆積した泥土
(吸引による泥土の除去を検討)

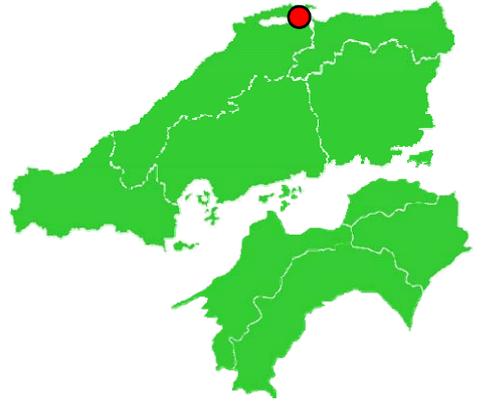
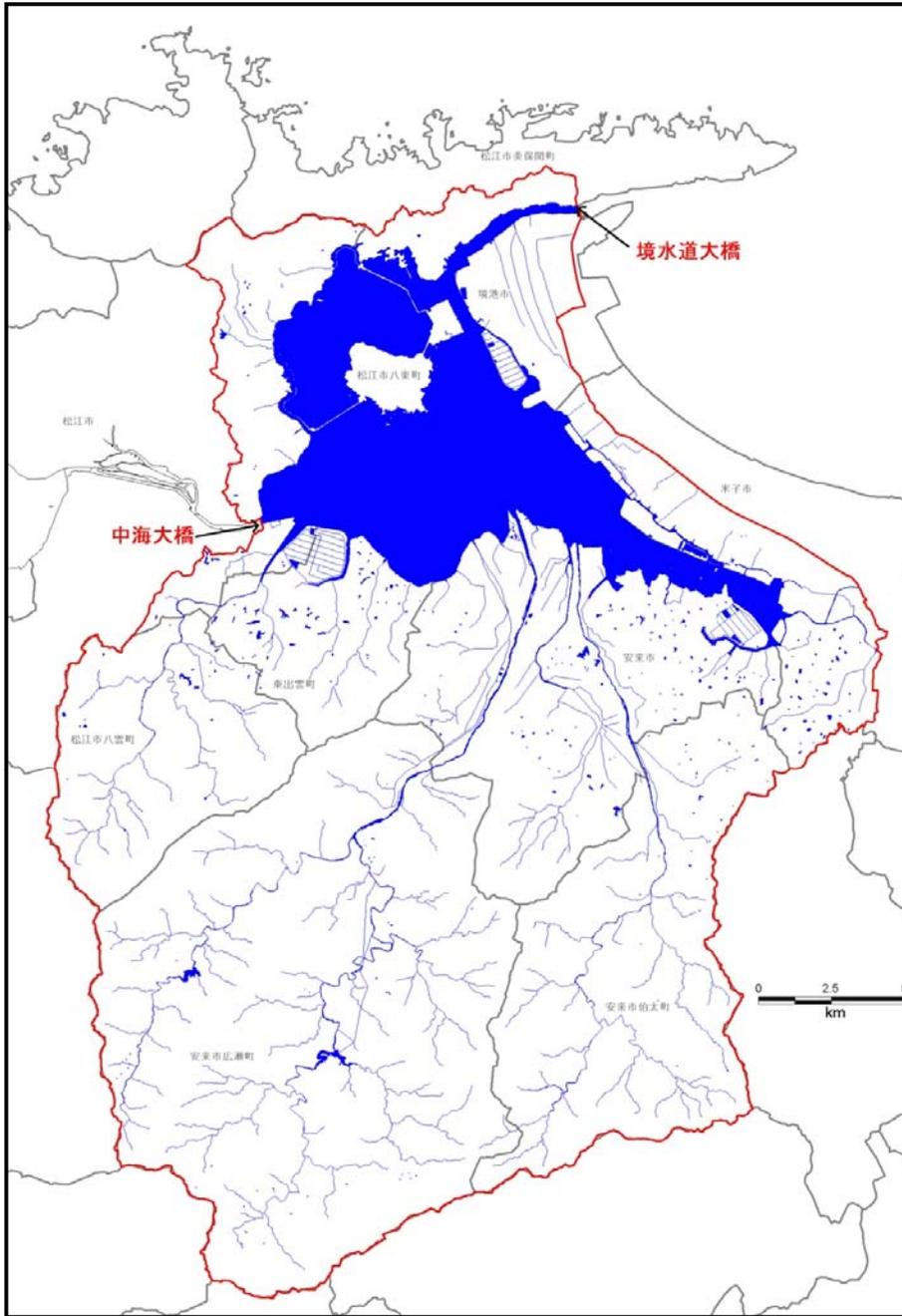
中海自然再生協議会について

- ◆ 島根県と鳥取県の4市1町にまたがる中海地区は、かつては、広大なアマモ場があり、サルボウ貝(赤貝)に代表される豊富な魚介類の生産の場であった。しかし、湖の富栄養化や開発による湖形状の改変などにより、水質の悪化やアマモ場の消滅、生物資源の減少などが進み、かつての豊潤な自然環境が大きく損なわれている。
- ◆ 平成17年3月には、自然再生協議会設立のための情報収集、米子湾の過去や過去の状況把握と自然再生のイメージづくりなどを目的として、「米子湾の自然再生に向けた勉強会」が開始され、平成18年3月までの間、合計12回にわたり開催。
- ◆ 平成18年8月には、民間団体「自然再生センター」の呼びかけにより、「中海自然再生協議会設立準備会」が合計6回にわたり開催され、官民学が連携した新しいモデルの自然再生協議会設立を目指して、参加者公募のために必要となる自然再生の目的・内容の絞り込みなどについて検討。
- ◆ 平成19年6月に、民間団体「自然再生センター」の呼びかけにより、協議会の自然再生推進法に基づく「中海自然再生協議会」を設立。

「豊かな漁場・遊べるきれいな中海」をめざして、彦名・安部地域における浚渫汚泥処分場の有効活用と水鳥の生息環境の再生、崎津地域でのアマモ場の再生などの具体的目標について検討を行う予定。

 - 第1回自然再生協議会(平成19年6月30日)
 - ・協議会の設立
 - 第2回自然再生協議会(平成19年8月25日)
 - ・各部会からの報告
 - 第3回自然再生協議会(平成19年10月27日)
 - ・全体構想(第一次案)の協議
- ◆ 自然再生協議会の構成員合計64(個人・団体)※平成19年11月現在

なかうみ
中海自然再生協議会



かつての浅瀬では肥料用の水草採取が盛んだった

自然再生の対象となる地域(案)(協議会規約より)



現在の地形



干拓工事前(昭和22年)の地形